

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
設定日	2014年4月4日
信託期間	2014年4月4日～2024年4月8日（約10年）
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主にニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	短期N Zドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none"><li>・短期N Zドル債マザーファンドを主要投資対象とします。</li></ul> 短期N Zドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none"><li>・ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。</li></ul>
投資制限	短期N Zドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none"><li>・株式への実質投資は行いません。</li><li>・外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。</li></ul> 短期N Zドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none"><li>・株式への投資は行いません。</li><li>・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</li></ul>
分配方針	毎年3月、9月の7日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。 *分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。

# 運用報告書（全体版）

第3期

決算日 2015年9月7日

## 短期N Zドル債オープン （資産成長型）

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「短期N Zドル債オープン（資産成長型）」は、去る2015年9月7日に第3期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

ファンドの内容、運用状況に関する情報などを  
ホームページでご覧いただけます。

<http://www.daiwasbi.co.jp/>

また、お電話でも承っております。

デスクロージャー部 ☎ 0120-286104

受付時間は、毎営業日の午前9時から午後5時までです。

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

# 短期NZドル債オープン（資産成長型）

## 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産額
	(分配落)	税金	込金	騰落	中率			
(設定日) 2014年4月4日	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	百万円 25
第1期 (2014年9月8日)	9,959	0	△ 0.4	9,973	△ 0.3	96.4	-	322
第2期 (2015年3月9日)	10,378	10	4.3	10,374	4.0	92.9	-	323
第3期 (2015年9月7日)	8,950	0	△13.8	8,985	△13.4	95.1	-	263

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

\*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

\*基準価額の騰落率は分配金込み

\*先物組入比率は、買建比率-売建比率

\*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

## 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率
	騰落率	騰落率				
(期首) 2015年3月9日	円 10,378	% -	(参考指数) 10,374	% -	% 92.9	% -
3月末	10,561	1.8	10,569	1.9	96.7	-
4月末	10,635	2.5	10,637	2.5	94.1	-
5月末	10,439	0.6	10,448	0.7	93.4	-
6月末	9,924	△ 4.4	9,949	△ 4.1	97.3	-
7月末	9,781	△ 5.8	9,808	△ 5.5	96.2	-
8月末	9,354	△ 9.9	9,389	△ 9.5	96.1	-
(期末) 2015年9月7日	8,950	△13.8	8,985	△13.4	95.1	-

\*騰落率は期首比です。

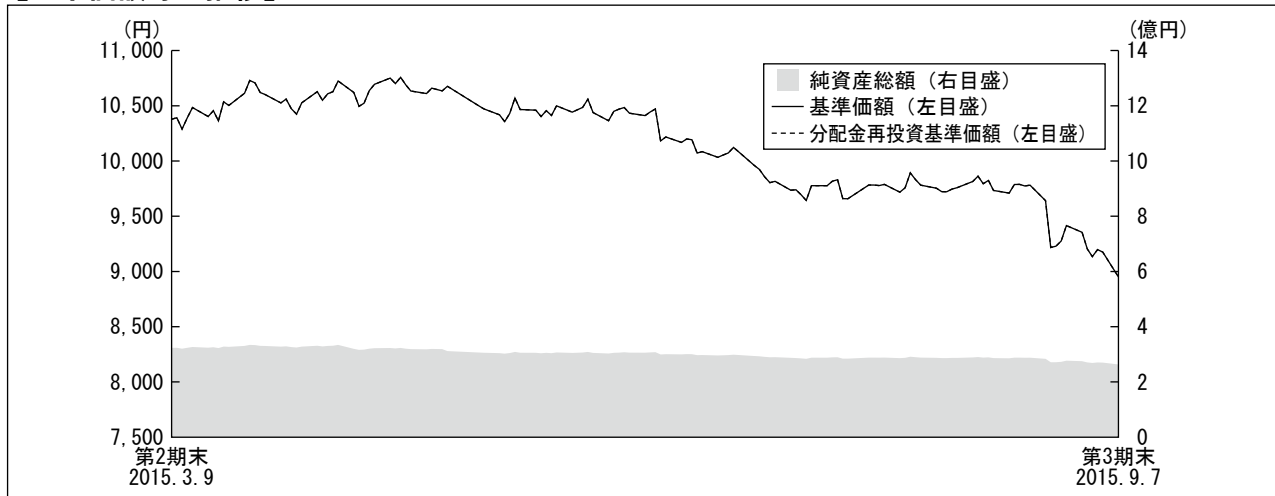
\*先物組入比率は、買建比率-売建比率

\*当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

# 短期NZドル債オープン（資産成長型）

## 運用経過

### 【基準価額等の推移】



\*当ファンドにはベンチマークはありません。

\*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第3期首：10,378円

第3期末：8,950円（既払分配金 0円）

騰落率：△13.8%（分配金再投資ベース）

### 【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、高格付けのニュージーランド・ドル建ての公社債および短期金融商品へ投資を行いました。

（上昇要因）

ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が4月末の理事会で政策転換の可能性を示唆し、6月と7月の2回合計で0.50%政策金利を引き下げた結果、ニュージーランド国債市場では中短期ゾーンを中心に利回りが大きく低下（債券価格は上昇）しました。このような環境下、ポートフォリオのデュレーション\*は2年を中心に1.7年～2.6年のレンジでやや高めで調整を行い、プラスのリターンを確保できたことが上昇要因となりました。

（下落要因）

ニュージーランドドルが期首の88.88円から期末には74.80円へ下落したことが下落要因となりました。4月末のRBNZ理事会で利下げへの政策転換が示唆されて以降、ニュージーランドドルは対米ドルで下落し始め、6月および7月に利下げが実施されたことや乳製品価格の低迷を背景に対円でも下落基調となりました。8月に入り、中国が人民元を実質的に切り下げたことをきっかけに中国の景気減速への懸念が強まり、世界同時株安とリスク回避の円買いによる円高が進行したことでニュージーランドドルは対円で一段安となり、基準価額を押し下げました。

\*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

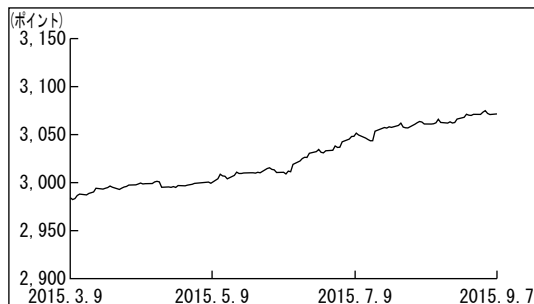
## 短期NZドル債オープン（資産成長型）

### 【投資環境】

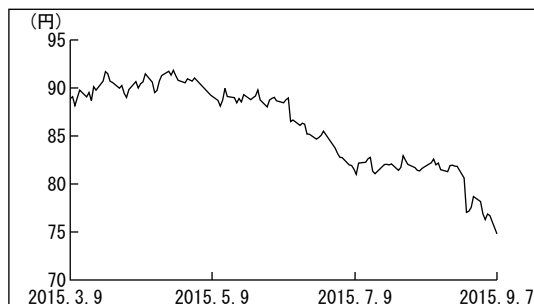
当期のニュージーランド債券市場は、RBNZによる2度の利下げにより中短期債利回りが大幅に低下し堅調に推移した一方、ニュージーランドドルは大幅安となりました。

RBNZは2015年6月の理事会で政策転換を行い利下げに踏み切り、7月に追加利下げを実施しました。主力輸出品である乳製品の国際入札価格の値下がりが止まらず、酪農家や関連企業を中心に景気マインドが急速に悪化したことに加え、インフレ率が物価目標の下限を下回る状況が続いたことが背景にあります。RBNZの政策転換を反映してニュージーランド国債利回りは中短期を中心に大幅に低下（債券価格は上昇）し、ニュージーランドドルは対米ドルで下落基調となりました。8月に入り、中国が人民元を実質的に切り下げたことをきっかけに中国の景気減速懸念が急速に広がり、世界同時株安とリスク回避としての円買いにより円高が進行したことを受けてニュージーランドドルは対円で大きく値を下げ、期初の89円付近から期末には74円台へ大幅に下落し期を終えました。

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



## 短期NZドル債オープン（資産成長型）

### 【ポートフォリオ】

#### ■短期NZドル債オープン（資産成長型）

主要投資対象である短期NZドル債マザーファンドを期を通じて高位に組み入れ、期末の実質的な公社債組入比率は95.1%としました。

#### ■短期NZドル債マザーファンド

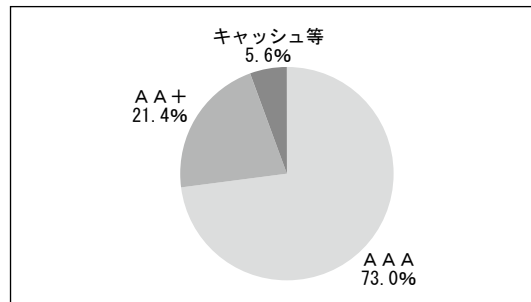
当期の騰落率は、△13.1%となりました。

RBNZが金融政策のスタンスを引き締めから緩和に転換したため、長めのデュレーションを基本にコントロールしました。期初から4月のRBNZ理事会までは、政策転換リスクに備えデュレーションを2年程度に維持し、実際に利下げが示唆された後はいったん2年未満に引き下げました。その後、6月に利下げが実施された後に景気センチメントが急速に悪化したため、デュレーションを最大2.6年へ引き上げ、6月から7月にかけての金利低下局面に対応しました。7月下旬に、デュレーションをいったん2.2年へ引き下げた後、8月に世界同時株安が発生し金利低下圧力がかかったものの、低迷を続けていた乳製品価格が底打ちする兆しが表れたためデュレーションの長期化は小幅にとどめ、期末のデュレーションを2.16年としました。

投資銘柄は、ニュージーランド国債、LGF A債（ニュージーランド地方自治体資金調達機構）、カウリ債（非居住者が発行するニュージーランドドル建ての国内債）へ投資を行い、期末のポートフォリオの平均利回りを2.9%としました。

格付別資産構成

(2015年9月7日現在)



\*純資産総額に対する評価額の割合

## 短期NZドル債オープン（資産成長型）

### 【ベンチマークとの差異】

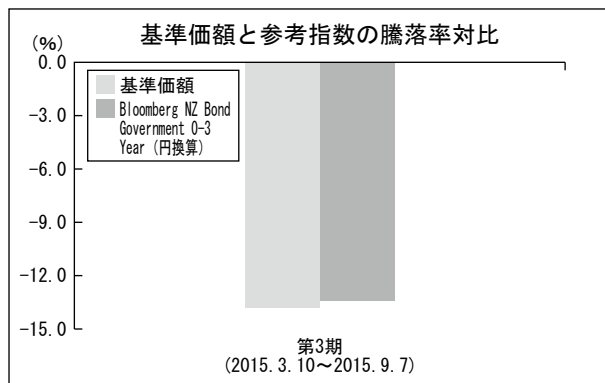
当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額（分配金再投資ベース）の騰落率は△13.8%となり、参考指数であるBloomberg NZ Bond Government 0-3 Year（円換算）の騰落率△13.4%を0.4%下回りました。

（主な差異の要因）

当ファンドは信託報酬等の要因により参考指数を下回りましたが、主要投資対象である短期NZドル債マザーファンドは参考指数を上回りました。その要因は、以下の通りです。

RBNZの金融政策が利上げから利下げへ転換されるタイミングで、デュレーションを機動的に長期化したことが参考指数を上回った主な要因となりました。また、ギリシャ債務支援を巡る協議が7月まで長引き、8月に中国発の世界同時株安が発生するなど外部要因に伴う相場変動が激しく、売買執行タイミングにパフォーマンスが影響を受ける中、期を通じてファンドのパフォーマンスは参考指数対比で上回りました。



### 【分配金】

収益分配金につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

### ■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第3期	
	2015年3月10日 ~2015年9月7日	
当期分配金 (円)	(円)	0
(対基準価額比率) (%)	(%)	0.00
当期の収益 (円)	(円)	—
当期の収益以外 (円)	(円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	(円)	602

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

# 短期NZドル債オープン（資産成長型）

## 今後の運用方針

### ■短期NZドル債オープン（資産成長型）

引き続き、運用の基本方針に従い、マザーファンドへの投資を通じてニュージーランドドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

### ■短期NZドル債マザーファンド

ニュージーランドでは、主要輸出品である乳製品価格の長期低迷により景気マインドが急速に悪化しましたが、8月下旬に乳製品の国際入札価格が上昇に転じその傾向が9月に入ってからも続いていることは明らかな材料と言えます。RBNZは、酪農家の負担軽減とインフレ見通し改善を目指して政策金利を引き下げましたが、一方で移住者の急増に伴い住宅市場が過熱している状況下では自ずと利下げにも限界があると考えています。運用方針としては、デュレーションは引き続き2年程度を基本として金融政策や市場動向を見極めながら機動的な運営を行う方針です。投資銘柄に関しては、デュレーションの機動性を高めるため国債の組入比率を高めに維持しながら、地方債や国際機関債等のカウリ債へ分散投資を行う方針です。

## 1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年3月10日～2015年9月7日		
	金額	比率	
信託報酬	62円	0.610%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,116円です。
（投信会社）	(30)	(0.297)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(30)	(0.297)	購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	10	0.097	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(9)	(0.090)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.001)	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	72	0.707	

\*「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

\*各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

## 短期NZドル債オープン（資産成長型）

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2015年3月10日から2015年9月7日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 4,993	千円 5,163	千口 24,262	千円 25,965

### 利害関係人との取引状況等

(2015年3月10日から2015年9月7日まで)

#### <短期NZドル債オープン（資産成長型）>

##### ■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

#### <短期NZドル債マザーファンド>

##### ■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

### 組入資産の明細

2015年9月7日現在

#### ■親投資信託残高

	期首（前期末）	当 期	末
	口 数	口 数	評 価 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 309,328	千口 290,059	千円 265,143

\*短期NZドル債マザーファンド全体の受益権口数は、786,432千口です。

### 投資信託財産の構成

2015年9月7日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
短期NZドル債マザーファンド	千円 265,143	% 100.0
投資信託財産総額	265,143	100.0

\*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=74.80円

\*短期NZドル債マザーファンド

当期末における外貨建資産（687,459千円）の投資信託財産総額（720,373千円）に対する比率 95.4%



## 短期N Zドル債オープン（資産成長型）

### 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2015年9月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	265,143,142円
短期N Zドル債マザーファンド(評価額)	265,143,142
(B) 負 債	1,853,936
未 払 信 託 報 酬	1,837,768
そ の 他 未 払 費 用	16,168
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	263,289,206
元 本	294,194,044
次 期 繰 越 損 益 金	△ 30,904,838
(D) 受 益 権 総 口 数	294,194,044口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	8,950円

\* 元本状況

期首元本額	311,529,648円
期中追加設定元本額	5,072,719円
期中一部解約元本額	22,408,323円

\* 元本の欠損 30,904,838円

### 損益の状況

自2015年3月10日  
至2015年9月7日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△40,073,562円
売 買 益	734,454
売 買 損	△40,808,016
(B) 信 託 報 酬 等	△ 1,853,936
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△41,927,498
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	10,710,476
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	312,184
(配 当 等 相 当 額)	( 959,863)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 647,679)
(F) 計 (C + D + E)	△30,904,838
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	△30,904,838
追 加 信 託 差 損 益 金	312,184
(配 当 等 相 当 額)	( 972,056)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 659,872)
分 配 準 備 積 立 金	16,750,025
繰 越 損 益 金	△47,967,047

\* 有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含みます。

\* 信託報酬等には、消費税等相当額を含めて表示しております。

\* 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

< 分配金の計算過程 >

信託約款に基づき計算した収益分配可能額及び収益分配金の計算過程は以下のとおりです。

(A) 配 当 等 取 益 (費用控除後)	6,039,549円
(B) 有 価 証 券 売 買 等 損 益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
(C) 収 益 調 整 金	972,056
(D) 分 配 準 備 積 立 金	10,710,476
分 配 可 能 額 (A + B + C + D)	17,722,081
(1 万 口 当 り 分 配 可 能 額)	( 602.39)
収 益 分 配 金	0
(1 万 口 当 り 収 益 分 配 金)	( 0)

## お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。

# 短期NZドル債マザーファンド

## 運用報告書

決算日：2015年9月7日

(第3期：2015年3月10日～2015年9月7日)

当ファンドは、上記の通り決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
運用方針	主にニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資することにより、利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。
主要運用対象	ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
投資制限	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 株式への投資は、行いません。</li><li>・ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</li></ul>



## 大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

<http://www.daiwasbi.co.jp/>

## 短期NZドル債マザーファンド

### 設定以来の運用実績

決算期	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) (参考指数)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産総額
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率			
(設定日) 2014年4月4日	円 10,000	% —	10,000	% —	% —	% —	百万円 50
第1期 (2014年9月8日)	10,024	0.2	9,973	△ 0.3	96.2	—	816
第2期 (2015年3月9日)	10,525	5.0	10,374	4.0	92.3	—	768
第3期 (2015年9月7日)	9,141	△13.1	8,985	△13.4	94.4	—	718

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

\*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

\*先物組入比率は、買建比率－売建比率

### 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) (参考指数)		公社債組入比率	債券先物組入比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首) 2015年3月9日	円 10,525	% —	10,374	% —	% 92.3	% —
3月末	10,718	1.8	10,569	1.9	96.7	—
4月末	10,808	2.7	10,637	2.5	93.9	—
5月末	10,618	0.9	10,448	0.7	93.1	—
6月末	10,107	△ 4.0	9,949	△ 4.1	96.9	—
7月末	9,972	△ 5.3	9,808	△ 5.5	95.7	—
8月末	9,549	△ 9.3	9,389	△ 9.5	95.5	—
(期末) 2015年9月7日	9,141	△13.1	8,985	△13.4	94.4	—

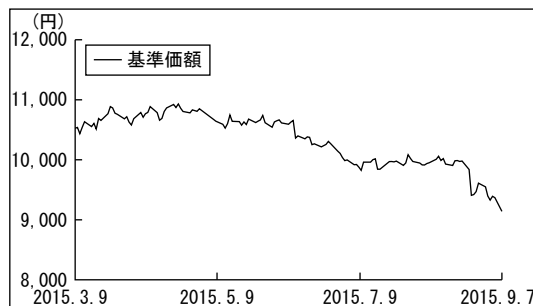
\*騰落率は期首比です。

\*先物組入比率は、買建比率－売建比率

## 運用経過

### 【基準価額等の推移】

期首：10,525円  
期末：9,141円  
騰落率：△13.1%



### 【基準価額の主な変動要因】

(上昇要因)

ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が4月末の理事会で政策転換の可能性を示唆し、6月と7月の2回合計で0.50%政策金利を引き下げた結果、ニュージーランド国債市場では中短期ゾーンを中心に利回りが大きく低下（債券価格は上昇）しました。このような環境下、ポートフォリオのデュレーション\*は2年を中心に1.7年～2.6年のレンジでやや高めで調整を行い、プラスのリターンを確保できたことが上昇要因となりました。

(下落要因)

ニュージーランドドルが期首の88.88円から期末には74.80円へ下落したことが下落要因となりました。4月末のRBNZ理事会で利下げへの政策転換が示唆されて以降、ニュージーランドドルは対米ドルで下落し始め、6月および7月に利下げが実施されたことや乳製品価格の低迷を背景に対円でも下落基調となりました。8月に入り、中国が人民元を実質的に切り下げたことをきっかけに中国の景気減速への懸念が強まり、世界同時株安とリスク回避の円買いによる円高が進行したことでニュージーランドドルは対円で一段安となり、基準価額を押し下げました。

\*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

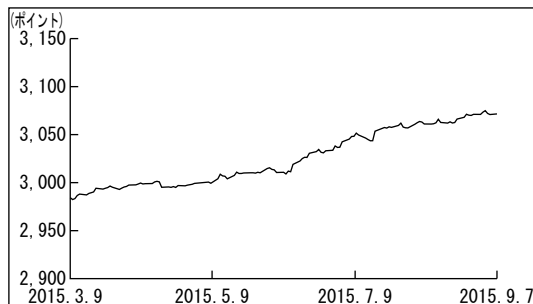
## 短期NZドル債マザーファンド

### 【投資環境】

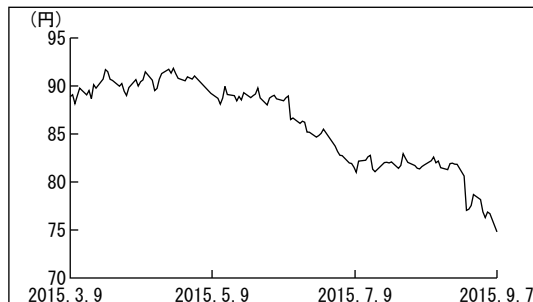
当期のニュージーランド債券市場は、RBNZによる2度の利下げにより中短期債利回りが大幅に低下し堅調に推移した一方、ニュージーランドドルは大幅安となりました。

RBNZは2015年6月の理事会で政策転換を行い利下げに踏み切り、7月に追加利下げを実施しました。主力輸出品である乳製品の国際入札価格の値下がりが止まらず、酪農家や関連企業を中心に景気マインドが急速に悪化したことに加え、インフレ率が物価目標の下限を下回る状況が続いたことが背景にあります。RBNZの政策転換を反映してニュージーランド国債利回りは中短期を中心に大幅に低下（債券価格は上昇）し、ニュージーランドドルは対米ドルで下落基調となりました。8月に入り、中国が人民元を実質的に切り下げたことをきっかけに中国の景気減速懸念が急速に広がり、世界同時株安とリスク回避としての円買いにより円高が進行したことを受けてニュージーランドドルは対円で大きく値を下げ、期初の89円付近から期末には74円台へ大幅に下落し期を終えました。

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



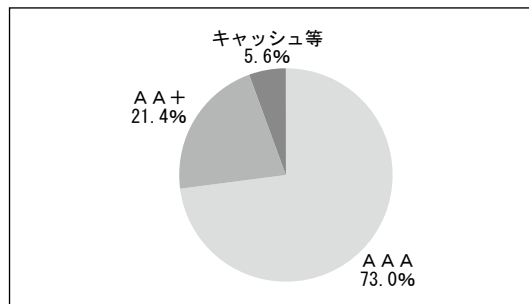
## 【ポートフォリオ】

当期の騰落率は、 $\Delta 13.1\%$ となりました。

RBNZが金融政策のスタンスを引き締めから緩和に転換したため、長めのデュレーションを基本的にコントロールしました。期初から4月のRBNZ理事会までは、政策転換リスクに備えデュレーションを2年程度に維持し、実際に利下げが示唆された後はいったん2年未満に引き下げました。その後、6月に利下げが実施された後に景気センチメントが急速に悪化したため、デュレーションを最大2.6年へ引き上げ、6月から7月にかけての金利低下局面に対応しました。7月下旬に、デュレーションをいったん2.2年へ引き下げた後、8月に世界同時株安が発生し金利低下圧力がかかったものの、低迷を続けていた乳製品価格が底打ちする兆しが表れたためデュレーションの長期化は小幅にとどめ、期末のデュレーションを2.16年としました。投資銘柄は、ニュージーランド国債、LGF A債（ニュージーランド地方自治体資金調達機構）、カウリ債（非居住者が発行するニュージーランドドル建ての国内債）へ投資を行い、期末のポートフォリオの平均利回りを2.9%としました。

### 格付別資産構成

(2015年9月7日現在)



\*純資産総額に対する評価額の割合

## 【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

基準価額の騰落率は、参考指数であるBloomberg NZ Bond Government 0-3 Year（円換算）の騰落率 $\Delta 13.4\%$ を0.3%上回りました。

（主な差異の要因）

RBNZの金融政策が利上げから利下げへ転換されるタイミングで、デュレーションを機動的に長期化したことが参考指数を上回った主な要因となりました。また、ギリシャ債務支援を巡る協議が7月まで長引き、8月に中国発の世界同時株安が発生するなど外部要因に伴う相場変動が激しく、売買執行タイミングにパフォーマンスが影響を受ける中、期を通じてファンドのパフォーマンスは参考指数対比で上回りました。

## 今後の運用方針

ニュージーランドでは、主要輸出品である乳製品価格の長期低迷により景気マインドが急速に悪化しましたが、8月下旬に乳製品の国際入札価格が上昇に転じその傾向が9月に入ってからも続いていることは明らかな材料と言えます。RBNZは、酪農家の負担軽減とインフレ見通し改善を目指して政策金利を引き下げましたが、一方で移住者の急増に伴い住宅市場が過熱している状況下では自ずと利下げにも限界があると考えています。運用方針としては、デュレーションは引き続き2年程度を基本として金融政策や市場動向を見極めながら機動的な運営を行う方針です。投資銘柄に関しては、デュレーションの機動性を高めるため国債の組入比率を高め維持しながら、地方債や国際機関債等のカウリ債へ分散投資を行う方針です。

# 短期NZドル債マザーファンド

## 1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年3月10日～2015年9月7日		
	金額	比率	
その他費用 (保管費用)	9円 (9)	0.091% (0.090)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	9	0.091	
期中の平均基準価額は10,295円です。			

\*「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

\*円未満は四捨五入しています。

## 売買及び取引の状況

(2015年3月10日から2015年9月7日まで)

### ■公社債

		買	付	額	売	付	額
外国	ニュージーランド	国債証券		千ニュージーランド・ドル 2,886	千ニュージーランド・ドル 1,516		
		地方債証券		433	106 (100)		
		特殊債証券		1,056	1,311 (300)		

\*金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

\*（ ）内は償還による減少分で、上段の数字には含まれていません。

## 主要な売買銘柄

(2015年3月10日から2015年9月7日まで)

### ■公社債

		当		期		
		買	付	売	付	
銘	柄	金額		銘	金額	
		千円				千円
NEW ZEALAND GOVERNMENT 6	05/15/21	122,805		NEW ZEALAND GOVERNMENT 6	05/15/21	124,533
NEW ZEALAND GOVERNMENT 6	12/15/17	88,401		INT BK RECON & DEVELOP 4.5	08/16/16	60,449
COUNCIL OF EUROPE 7.5	04/30/18	49,006		INTER-AMERICAN DEVEL BK 6.25	07/28/15	32,865
INTER-AMERICAN DEVEL BK 6.25	07/28/15	45,476		LANDWIRTSCH. RENTENBANK 4	01/30/20	18,269
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6	05/15/21	18,734		NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 6	12/15/17	9,408
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC 5	03/15/19	18,609				
NEW ZEALAND GOVERNMENT 3	04/15/20	16,457				
NEW ZEALAND GOVERNMENT 5	03/15/19	9,460				

\*金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

# 短期NZドル債マザーファンド

## 利害関係人との取引状況等

(2015年3月10日から2015年9月7日まで)

### ■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

## 組入資産の明細

2015年9月7日現在

### ■公社債

#### A 債券種類別開示

##### 外国（外貨建）公社債

区 分	当 期				末			
	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	う ち BB格以下 組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
ニュージーランド	千ニュージーランド・ドル 8,479	千ニュージーランド・ドル 9,072	千円 678,619	% 94.4	% -	% 4.8	% 72.9	% 16.7
合 計	-	-	678,619	94.4	-	4.8	72.9	16.7

\*組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

#### B 個別銘柄開示

##### 外国（外貨建）公社債

銘 柄	当 期				末		償 還 年 月 日
	種 類	利 率	額 面 金 額	評 価 額			
				外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額		
(ニュージーランド・ドル…ニュージーランド)		%	千ニュージーランド・ドル	千ニュージーランド・ドル	千円		
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	2,000	2,151	160,950	2017/12/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	200	233	17,475	2021/05/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	5.0000	100	107	8,076	2019/03/15	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	3.0000	200	202	15,149	2020/04/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	1,000	1,066	79,794	2017/12/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	5.0000	200	212	15,921	2019/03/15	
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	200	227	16,989	2021/05/15	
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	7.0000	100	106	7,949	2017/05/10	
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	4.0000	300	308	23,073	2020/01/30	
INT BK RECON & DEVELOP	特殊債券	4.5000	1,300	1,319	98,733	2016/08/16	
INTL FINANCE CORP	特殊債券	6.2500	500	535	40,090	2017/12/15	
EUROPEAN INVESTMENT BANK	特殊債券	7.5000	1,700	1,863	139,377	2017/12/15	
COUNCIL OF EUROPE	特殊債券	7.5000	500	554	41,460	2018/04/30	
ASIAN DEVELOPMENT BANK	特殊債券	4.1250	179	181	13,577	2016/10/28	
合 計	-	-	8,479	9,072	678,619	-	

\*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。



# 短期NZドル債マザーファンド

## 投資信託財産の構成

2015年9月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 678,619	% 94.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	41,753	5.8
投 資 信 託 財 産 総 額	720,373	100.0

\* 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=74.80円

\* 当期末における外貨建資産 (687,459千円) の投資信託財産総額 (720,373千円) に対する比率 95.4%

## 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2015年9月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	879,589,497円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	31,953,628
公 社 債(評価額)	678,619,839
未 収 入 金	160,176,417
未 収 利 息	7,417,307
前 払 費 用	1,422,306
(B) 負 債	160,673,580
未 払 金	160,673,580
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	718,915,917
元 本	786,432,377
次 期 繰 越 損 益 金	△ 67,516,460
(D) 受 益 権 総 口 数	786,432,377口
1 万 口 当 り 基 準 価 額(C/D)	9,141円

\* 元本状況

期首元本額	730,375,212円
期中追加設定元本額	214,279,535円
期中一部解約元本額	158,222,370円

\* 元本の内訳

短期NZドル債オープン (毎月分配型)	496,373,147円
短期NZドル債オープン (資産成長型)	290,059,230円

\* 元本の欠損

67,516,460円

## 損益の状況

自2015年3月10日  
至2015年9月7日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	19,607,199円
受 取 利 息	19,607,199
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△125,477,583
売 買 益	16,200,513
売 買 損	△141,678,096
(C) そ の 他 費 用	△ 703,516
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△106,573,900
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	38,308,285
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 8,760,008
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	9,509,163
(H) 計 (D+E+F+G)	△ 67,516,460
次 期 繰 越 損 益 金(H)	△ 67,516,460

\* 有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含まず。

\* 解約差損益金とは、一部解約時の解約金額と元本の差額をいい、元本を下回る額は利益として、上回る額は損失として処理されます。

\* 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

## お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。



世界に通用する質の高い  
資産運用会社を目指します